

三菱 UFJ リース

契約の種類：アニュアルレビュー

日付：2019年3月6日

担当者：

Wakako Mizuta, wakako.mizuta@sustainalytics.com, (+81) 3 4510 7979

Marie Toyama, marie.toyama@sustainalytics.com, (+81) 3 4510 7979

はじめに

2018年、三菱UFJリース株式会社（三菱UFJリース）は、日本国内での既存太陽光発電プロジェクトに対する融資事業のリファイナンスを行うことを目的として、グリーンボンドを発行しました。2019年3月、三菱UFJリースはサステナリティクスとの間で、発行済みグリーンボンドによる調達資金を充当したプロジェクトのレビュー、また当該プロジェクトが三菱UFJリースグリーンボンドフレームワークに示された、調達資金の使途のクライテリア及びレポーティングに関する基準を満たしているか評価する契約を結びました¹。

評価基準

サステナリティクスは、以下の要件について、2018年に資金提供を受けたプロジェクトを評価しました。

1. グリーンボンドフレームワークに示された調達資金の使途及び適格クライテリアへの適合
2. グリーンボンドフレームワークに示された調達資金の使途のクライテリアに対する主要業績評価指標（KPI）の少なくともひとつに関する報告

表1は調達資金の使途、適格クライテリアのリストであり、表2は関連するKPIのリストです。

表1：調達資金の使途及び適格クライテリア

調達資金の使途	適格クライテリア
再生可能エネルギー	<p>グリーンボンドで調達された資金は、太陽光発電プロジェクトへの投資資金で、かつ下記の適格クライテリアに適合した融資事業のリファイナンスに充当。</p> <ol style="list-style-type: none">I. 支出が日本国内の太陽光発電設備の開発、建設、運用に関連したものであること。II. クライアント（発電事業者）が、当該設備の建設および設置に伴って適用される環境アセスメントや森林法など関連法令を遵守することについて、契約書上で表明していること。（適用されるものに限る）III. クライアント（発電事業者）が当該設備の建設および設置に先立って地元住民への説明を行い理解を得ていること。IV. プロジェクトへの融資が、グリーンボンドの発行日から遡って24か月以内に実施されたものであること。

¹ 三菱UFJリースグリーンボンドフレームワークには以下のホームページからアクセスできます。

https://www.sustainalytics.com/wp-content/uploads/2018/04/Green-Bond-Framework-and-Opinion_Mitsubishi-UFJ-Lease-and-Finance_Final_Japanese.pdf

表 2：主要業績評価指標（KPI）

主要業績評価指標（KPI）	
再生可能エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 適格グリーンプロジェクトによって削減された CO2 排出量（出力規格に基づく理論値） 適格グリーンプロジェクトによって発電された発電量（出力規格に基づく理論値）

発行体の責任

三菱 UFJ リースは、プロジェクトの説明、推定費用と実際の費用、プロジェクトが環境に及ぼす影響を含め、資金提供を受けたプロジェクトの詳細に関連する正確な情報及び書類を提出する責任を負います。

独立性と品質管理

投資家に ESG とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界をけん引するサステナリティクスは、三菱 UFJ リースのグリーンボンドによる調達資金の用途を検証しました。本契約の一環として行った作業では、同社のグリーンボンドフレームワークと合致しているか検討するために、三菱 UFJ リースの従業員からの文書の収集及び確認を行いました。

サステナリティクスは候補のプロジェクトに関して、三菱 UFJ リースが提示した情報及び事実に基づいて依拠しています。三菱 UFJ リースが不正確もしくは不完全なデータを提示したことにより、ここに記したオピニオン、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負うものではありません。

評価プロセスにおいて、サステナリティクスは、高い品質と厳密さを実現すべく努力し、また社内のサステナビリティボンドレビュー委員会（Sustainability Bonds Review Committee）がレビューの評価に関する監督を行いました。

結論

限定保証プロセスに基づき検討したところ²、すべての関連資料において、三菱 UFJ リースグリーンボンドによる調達資金を充当した調査対象のグリーンボンドプロジェクトが、グリーンボンドフレームワークで述べられた調達資金の用途及びレポーティングの基準に合致していないと確信させるものは一切ありませんでした。三菱 UFJ リースは、サステナリティクスに対して、2018 年 4 月時点で、グリーンボンドによる調達資金が全額充当されたことを開示しました。

² サステナリティクスの限定保証プロセスには、発行体が提供するところの、資金を充当したプロジェクトの詳細に関する文書（プロジェクトの説明、推定費用と実際の費用、プロジェクトが環境に与える影響を含む）の調査があります。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は行っていません。

調査結果の詳細

表 3: 調査結果の詳細

適格クライテリア	調査手順	調査結果	特定された過失 または例外
調達資金の使途の クライテリア	2018年にグリーンボンドによる調達資金が充当されたプロジェクトを対象に、グリーンボンドフレームワーク及び上記表1に示された調達資金の使途のクライテリアとの適合性を確認。	レビューの対象となった全プロジェクトは、調達資金の使途のクライテリアに適合しています。調達資金の使途のクライテリアの適合性に関するリストは参考資料1をご参照ください。	該当なし
レポーティングの クライテリア	2018年にグリーンボンドによる調達資金が充当されたプロジェクトを対象に、プロジェクトによるインパクトがグリーンボンドフレームワーク及び上記表2に示されたKPIに合致する形で報告されたかを確認。	レビューの対象となった全プロジェクトは、調達資金の使途のクライテリアに応じたKPIを報告しています。報告された主要業績評価指標のリストは参考資料2をご参照ください。	該当無し

参考資料 1: 適格クライテリアとの適合性

プロジェクトカテゴリー	プロジェクト数	適格クライテリア				全プロジェクトが調達資金の用途のクライテリアに適合
		I. 支出タイプ	II. 環境アセスメントと関連法令の遵守	III. 地元住民への説明	IV. 日付	
太陽光発電	25	グリーンボンドの調達資金が充当された全 25 プロジェクトは、日本国内の太陽光発電設備の開発、建設、運用に関連する	全 25 プロジェクトにおいて、クライアントは、環境アセスメントと関連法令を遵守していることを契約書上で表明した（適用されるものに限る）	全 25 プロジェクトにおいて、クライアントは、当該設備の建設および設置に先立って地元住民への説明を行った	全 25 プロジェクトは、グリーンボンドの発行日から遡って 24 か月以内に融資された	適合

参考資料 2: プロジェクトのインパクト

プロジェクトカテゴリー	プロジェクト数	CO2 削減量の合計 (t-CO2/年)	発電量の合計(kWh)	カテゴリー内の全プロジェクトの KPI がレポートिंगのクライテリアに適合
太陽光発電	25	27,037	52,805,736	適合

免責事項

©Sustainalytics2019 無断複写・複製・転載を禁ず

このセカンドパーティ・オピニオン（以下「オピニオン」）に関する知的財産権はすべてサステイナリティクスに帰属します。サステイナリティクスの書面による事前の許可がない限り、本オピニオンのいかなる部分も、電子的、機械的、写真複製、録音、その他の形式・手段を問わず、複写・転載・公開すること、二次的著作物の作成、形式を問わず第三者に提供すること、又は本書の一部や本書の内容を公表することはできません。またオピニオンの対象となる「グリーンボンドフレームワーク」を伴うことなく、公開することもできません。

本「オピニオン」は、特定の投資家を対象とせず、一般の投資家向けに、分析対象の債券が持続可能かつ責任あるものだと考えられる理由を述べるために作成されました。従って、本「オピニオン」は情報提供のみを目的とするものであり、サステイナリティクスは「オピニオン」の内容についてのいかなる形の賠償責任も、「オピニオン」やそこに含まれる情報の利用に起因する損害に関する賠償責任も認めることはありません。

本「オピニオン」はクライアントから提供された情報に基づいて作成されているため、サステイナリティクスは本「オピニオン」に提示された情報の完全性、正確性及び最新性を保証することはなく、また誤記脱漏に対する責任を負うこともしません。引用している第三者名は、情報の出所を示すものであり、かかる情報所有者によるスポンサーシップ又は推奨とはならないことにご留意ください。

本「オピニオン」に記載されたいかなる内容も、明示黙示を問わず、企業への投資の可否、又は投資可能ユニバース／ポートフォリオへの組み入れの可否についての表明や保証とみなすことはできません。さらに本「オピニオン」はいかなる場合も、債券の経済的パフォーマンスや信用力の評価と解釈することはできず、また債券による調達資金の効果的な充当を扱ったものと解釈することもできません。

クライアントは、自身のコミットメントの遵守、実施及びモニタリングに関する実証及び遂行に対して全ての責任を引き受けるものとします。

英語版とその他の言語版の間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は英語版が優先するものとします。

サステナリティクスについて

サステナリティクスは、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、格付け及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。サステナリティクスは世界各地に 13 のオフィスを展開し、機関投資家のパートナーとして、ESG に関する情報や調査結果を投資プロセスに組み込むサポートを提供しています。今日、30 か国において多国籍企業、金融機関及び政府機関に至る様々な発行体が弊社にグリーンボンドやサステナビリティボンドに関するセカンドパーティ・オピニオンを依頼しています。サステナリティクスは Climate Bonds Standard Board により検証機関としての認証を受け、フレームワークの策定や検証において様々なステークホルダーを支援しています。また、サステナリティクスは Global Capital 社により「2017 年もっとも印象的なセカンドパーティ・オピニオン機関」として表彰を受けました。2018 年には、Climate Bonds Initiative 団体及び Environmental Finance 誌によって「最大の外部レビュー機関」に指定されました。サステナリティクスは、2018 年に、日本のグリーンボンド市場の成長に対する弊社の貢献が認められ、一般社団法人環境金融研究機構から「サステナブルファイナンスアワード特別賞」を受賞しております。

詳しくは、www.sustainalytics.com をご参照、又は info@sustainalytics.com にご連絡下さい。

